

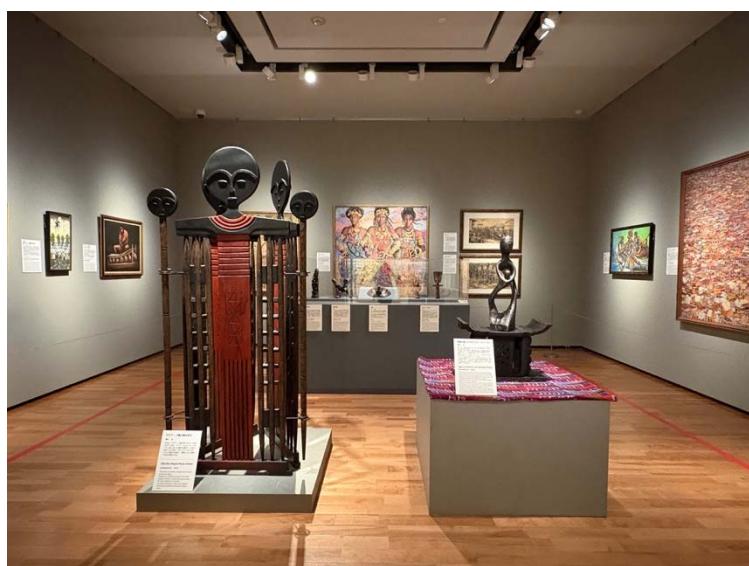
大使館の美術展 IV –文化交流隨想– 駐日ガーナ共和国大使館

Exhibitions of Embassies Part IV: Embassy of the Republic of Ghana in Japan – Pathways to Cultural Exchange with the World –

東京富士美術館は、これまで世界 34 カ国・地域の美術館や文化機関と友好関係を築きながら、各国の優れた芸術を新たな視点で紹介する「海外文化交流特別展」を開催してまいりました。51 回にわたる同展の歩みは、当館が長年にわたり取り組んできた国際文化交流の軌跡そのものです。

一昨年より開始した新企画「大使館の美術展」では、日本国内の各国大使館の協力のもと、普段目にする機会の少ない貴重な作品を紹介し、ご来場の皆様から高い評価をいただいております。このたびは、駐日ガーナ共和国大使館の全面的なご協力を得て、同国の豊かな歴史と精神文化を伝える厳選された 24 点の作品を展示いたします。

会場では、アシャンティ族に由来する工芸品をはじめ、造形を大胆に簡略化しながらも深い精神性を宿す彫刻作品、ガーナを代表する近代画家たちによる絵画、そして鮮やかな色彩と象徴的な文様が特徴的なケンテ布の伝統衣装など、ガーナ文化の多様な魅力を体現する作品群をご覧いただけます。信仰、王権、社会、そして現代へと連なる文化的背景を映し出す展示内容は、非常に充実した構成となっており、ガーナの芸術と文化の奥深さを多角的に感じていただける貴重な機会です。本展を通じて、ガーナが育んできた豊かな文化と美意識に触れていただければ幸いです。ぜひこの機会に、ガーナ文化の魅力を存分にお楽しみください。



開催概要

展覧会名：大使館の美術展 IV —文化交流隨想— 駐日ガーナ共和国大使館

Exhibitions of Embassies Part IV: Embassy of the Republic

of Ghana in Japan – Pathways to Cultural Exchange with

the World –

※同時開催 東京富士美術館コレクション フランシスコ・デ・ゴヤ 四大連作版画展
(本館／企画展示室)

西洋絵画 ルネサンスから 20 世紀まで (新館／常設展示室 第 1-6 室)

会 場： 東京富士美術館(〒192-0016 東京都八王子市谷野町 492-1)

新館／常設展示室 第 7 室

会 期： 2026(令和 8)年 2月7日(土)～2026 年 3月22日(日)

休館日：月曜休館（祝日の場合は開館。翌日火曜日が振替休館）

開館時間：10:00～17:00（16:30 受付終了）

入場料金：大人1,000(800)円、大高生600(500)円、中小生300(200)円、未就学児無料

※全ての展示室をご覧になります

※（ ）内は各種割引料金 [20 名以上の団体、65 歳以上の方、当館公式 SNS 登録者ほか]

※土曜日は中小生無料

※障がい者、付添者 1 名は通常料金の半額 [証明書をご提示ください]

主 催： 東京富士美術館、駐日ガーナ共和国大使館

※プレスリリースに掲載の図版はそのままご利用ください。

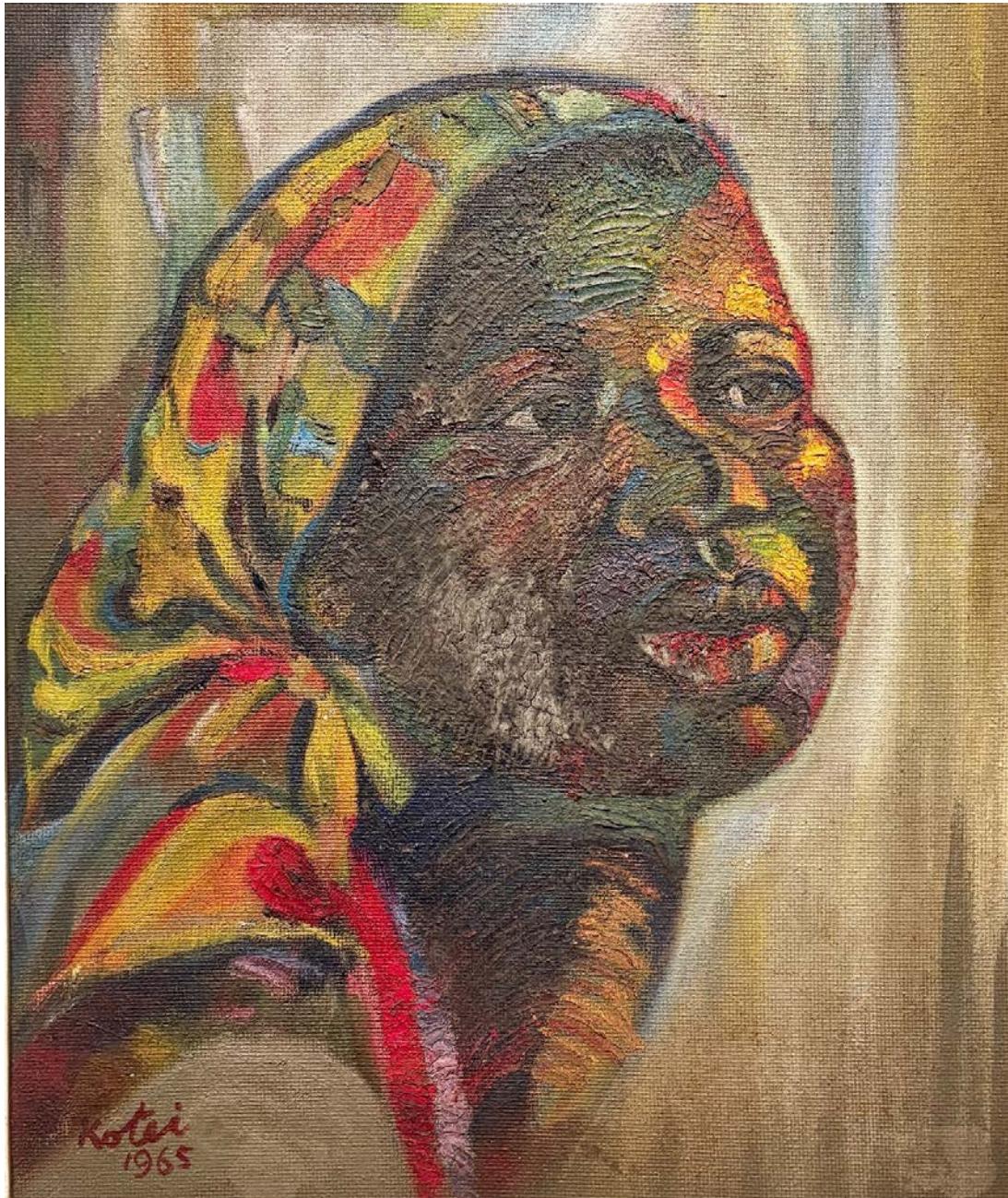
※東京富士美術館のホームページよりプレスリリースをダウンロードできます。

主な出品作品



内藤紀子オウス（1940-）《アドワ・ダンサー》2009年 パステル、紙

本作は、ガーナのアシャンティ王国に伝わる伝統舞踊「アドワ（Adowa）」を踊る女性たちの姿を描いています。アドワ舞踊は、王族の葬儀や重要な儀礼において、祖先への敬意や共同体の記憶を身体表現として伝えてきた舞踊であり、現在では祝祭や公的行事の場でも披露されています。太鼓や鐘、手拍子、笛による重層的なリズムに合わせ、踊り手たちは鮮やかなケンテ布をまとい、抑制の効いた足運びと纖細な手の動きを組み合わせて舞います。両手で鳥の形を象る「ンサ・アセ（nsa ase）」は共同体の結束を象徴し、指を鳴らす「ソワ（sowa）」は音楽との一体感を高めます。手の所作はアドワ舞踊において感情や物語を伝える重要な表現手段です。作者の内藤紀子オウスは、1969年よりガーナに在住する画家。長年の現地生活を通して培われた深い文化理解を背景に、本作ではアドワ舞踊に宿る精神性と、ガーナの女性たちの生命力を鮮やかな色彩で力強く描き出しています。



アモン・コティ（1915 - 2011）

《アドレ（私の妻の肖像）》1965年 油彩、カンヴァス

ガーナの国章をデザインしたことで知られるアモン・コティは、画家、彫刻家、音楽家など多方面で才能を発揮した芸術家です。アクラのラバディに生まれ、ガ系民族の文化的なリズムや儀礼に深く根ざした世界観を育みました。本作は1957年のガーナ独立から8年後、国家のアイデンティティが力強く形成されていた時期に制作されました。コティは生涯を通じてア克拉の女性たちに深い愛情を抱いていましたが、通常は作品に題名を付けない彼が、本作には例外として妻の名を冠しています。そこには親密な眼差しと、一人の女性に対する深い敬意が静かに表出しています。暗色の肌に映える鮮やかな色彩は、被写体の生命力と尊厳を際立たせています。特にヘッドスカーフに用いられた黄、赤、緑はガーナ国旗を想起させ、背景との鮮烈な対比によって、愛する妻の存在感をいっそう力強く、神聖なものへと高めているのです。



アブラデ・グローヴァー（1934-）《タウン・パノラマ》1991年 油彩、カンヴァス
本作のモチーフは、ガーナ第2の都市であり、かつてのアシャンティ王国の古都であるクマシに位置する「ケジェティア・マーケット」です。この巨大市場は、西アフリカ最大級の規模を誇り、人々の営みからあふれる圧倒的な熱気に満ちています。作者のグローヴァーは、1957年のイギリスからの独立直後に設立されたクワメ・ンクルマ科学技術大学（KNUST）で美術を学び、その後、英国や米国に留学し博士号を取得しました。母校で後進の指導にあたりながらガーナ美術界を代表する作家として活躍しており、欧米でも多数の個展やグループ展を開催しています。下書きを行わず、チューブから出した絵具をパレットナイフで直接画面にのせる手法で制作されており、厚く混色された絵具の層が、密集するトタン屋根を色彩豊かに描き出し、画面全体に複雑で生き生きとした表情を与えています。本作は、2024年7月23日に高円宮妃久子殿下からガーナ共和国大使館へ寄贈されたものです。



作者不詳《アディンクラを捧げる女性たち》現代 絹、キャンバス

本作は「アディンクラ・シンボル」をテーマにしたシルクアートで、色鮮やかなヘッドラップを纏った三人の女性が、それぞれ重要な教えを捧げる姿を描いています。アディンクラ (Adinkra) は、概念やことわざを表す視覚的シンボルで、1700 年代以前のガーナ・アカン族に由来します。当初は王族の儀式用の布に用いられたが、現在ではロゴや衣服、家具、建築などにも広く用いられています。女性たちが捧げるのは、上からギエ・ニヤメ (Gye Nyame)、サンコファ (Sankofa)、アコフェナ (Akofena)です。ギエ・ニヤメは神の全能性と至高性の象徴で、ガーナ最大額面の 200 セディ紙幣にも描かれています。サンコファは過去から学び未来を築く知恵の象徴で、アカン族のことわざ「Se wo were firi na wosan kofa a, yenkyiri (忘れてしまったものを取りに戻るのは悪いことではない)」に由来します。アコフェナは戦の剣（または儀式用剣）で、国家権力や勇敢さを象徴し、国章では言語学者の杖と交差して描かれています。



《仮面》現代、木

アフリカの仮面は、儀礼や祭祀において人々と祖先、精霊、不可視の世界をつなぐ媒介として機能してきました。いずれも誇張された頭部や幾何学的な文様、簡潔化された身体表現を特徴としています。表面に施された反復的な彫刻文様や髪型、装身具の表現は、社会的地位、年齢、性別、あるいは精神的な力を象徴する要素として重要な意味を持ちます。写実性よりも象徴性を重んじた造形は、ガーナ彫刻の美意識を端的に示すものであり、簡潔な形態の中に存在感と緊張感を宿しています。



《抱擁の像とアセセドゥワ (スツール)》 現代 木

流れるような曲線で表現された二体は、深い抱擁を通じて、愛や家族、共同体の結束を象徴しています。黒く磨き上げられた木肌に、精緻な模様が施された金属板を組み合わせる技法は、ガーナの伝統的な造形美と現代的な洗練を融合させた、現代アフリカン・アートの好例です。本作の土台となっているのは、アシャンティ・トゥイ語で「アセセドゥワ (asesedwa)」と呼ばれるスツールです。アシャンティ族の文化においてスツールは単なる椅子ではなく「持ち主の魂が宿る場所」とされ、個人や共同体の精神的基盤を象徴する存在です。アシャンティ族はガーナ南部から中部にかけて居住するアカン族の主要な一派で、17世紀以降に強力なアシャンティ王国を形成したことで知られています。



《ケンテ布の装い — ガーナの伝統衣装》 現代 絹、綿

ガーナのアシャンティ族に伝わる「ケンテ」は、17世紀にクモの巣をヒントに誕生したとされる鮮やかな手織り布で、かつては王族専用の神聖な衣装でしたが、今日では人生の節目を彩る伝統着として広く親しまれています。そのデザインは「かご」のような質感と350種以上の精緻な文様が特徴で、富や王権を表す黄色、知恵を示す青といった色彩に加え、母系社会の象徴である四角形や王の徳を象徴する菱形など、一つひとつの要素にアカン社会の深い精神性と歴史的意味が込められています。

◆レストラン セーヌからのお知らせ



Tea Time Cake Set

ガーナ大使館展開催記念ティータイムケーキセット

ガーナをイメージしたチョコレートケーキセットで
ステキなティータイムをお過ごしください♪

美術館展覧会鑑賞チケット付き
ティータイムケーキセット
¥2,800(税込)



*実際とイメージです。

駐日ガーナ共和国大使館展開催記念！ ティータイムケーキセットのご案内

東京富士美術館レストラン・セーヌでは、駐日ガーナ共和国大使館展の開催を記念して、Ozmall 限定の特別ティータイムケーキセットをご提供いたします。ガーナの豊かな文化と味わいをお楽しみいただける、この機会だけの特別メニューです。

ガーナをイメージしたチョコレートケーキセット

・チョコレートケーキ

ガーナはカカオ豆の生産国です。カカオ豆からできるチョコレートを使ったケーキを取り入れています。

・クベケーキ

「クベ」とはココナッツを意味し、ガーナの伝統菓子のひとつです。現地の食文化に着想を得た味わいを、ティータイムスタイルでアレンジしています。

・デーツ

ガーナの国花はナツメヤシ。その実であるデーツを取り入れることで、ガーナの自然や風土を象徴的に表現しています。

文化を感じるディテール

ティータイムケーキセットをご注文のお客様には、ガーナ国旗カラーの折鶴をプレゼントいたします。

また、テーブルマットには、ガーナ国旗の配色とガーナの伝統織物「ケンテ布」の文様モチーフを取り入れ、視覚的にもガーナ文化を感じていただけます。

展覧会鑑賞とともに、食を通じてガーナ文化に触れる特別な体験をぜひお楽しみください。

Ozmall 限定予約はこちらから

<https://www.ozmall.co.jp/restaurant/9649/>

大使からのメッセージ



ガーナ共和国の豊かな文化遺産を紹介する本展に、皆様をお迎えできることを大変光榮に存じます。

文化は国際関係を形づくる上で重要な役割を果たします。ガーナと日本は、長年にわたり、相互の信頼と尊重に基づく関係を築いてきました。伝統への敬意、ものづくりの精神、規律、共同体意識、人間の尊厳といった価値観は、両国に共通するものです。遺産や調和、細部を重んじる日本の姿勢は、ガーナの文化的理念とも深く響き合います。本展のような文化交流を通じて、両国の相互理解は一層深まり、友情の絆はさらに強固なものとなります。こうした文化的つながりは、持続可能な開発、教育、イノベーション、人と人との交流といった分野におけるガーナ、アフリカ、日本の幅広い協力関係を補完するものであり、包摂的かつ人間中心の成長への共通の取り組みを反映しています。

ガーナの歴史は数世紀にわたり、近代以前から強大な古代王国や活力ある社会が存在し、高度な統治制度、交易、工芸、文化表現を発展させてきました。こうした伝統は受け継がれ、発展を遂げながら、遺産を尊重しつつ進歩を受け入れ続ける、活力ある国家の基盤となっていました。ガーナ文化は、過去を映すものにとどまらず、創造性、不屈の精神、そして連綿と続く文化の連續性を体现し、国家のアイデンティティを形づくる「生きた表現」なのです。

本展は、2026年3月6日に迎えるガーナ共和国独立69周年を記念する公式行事の一環として開催されています。

1957年の独立は、ガーナにとって歴史的な節目であると同時に、文化的自信と国家としての誇りの象徴でもありました。

本展に展示されている文化的作品や表現は、そのような不朽の遺産を物語っています。それらは、ガーナの職人たちの創意工夫と象徴的な表現体系を体現するものであり、私たちはそれを通じて、知識や哲学、社会的価値観を受け継いできました。織物や彫刻、図像、デザイン、そして伝統的なモチーフに至るまで、ガーナの美術は意味とアイデンティティを伝えています。一つ一つの作品が、リーダーシップと共同体、精神性と倫理観、人と自然の調和といった物語を語りかけています。

ガーナ文化を象徴するものの中でも、とりわけよく知られているのが、鮮やかな色彩と文様に歴史や倫理、社会的責任のメッセージを込めた伝統織物「ケンテ」です。また、団結、勇気、知恵、忍耐、尊敬といった理念を表すアディンクラ・シンボルは、視覚的な哲学として重要な役割を果たしてきました。これらの文化表現は、ガーナにおいて芸術が常に教育や思索、社会的結束の手段であったことを私たちに思い起こさせてくれます。

本展はまた、近代国家としてのガーナの歩みも映し出しています。1957年、ガーナはサハラ以南アフリカで初めて植民地支配から独立を果たし、この歴史的出来事はアフリカ大陸全体の自由と自己決定を求める運動に大きな影響を与えました。この独立はアフリカの文化的自信と誇りに支えられていました。独立以降、ガーナは民主的統治、平和共存、包摂的発展を追求しながら、多様な人々と伝統を大切にしてきました。

本展は単なる文化財の展示にとどまりません。ガーナの物語に触れ、私たちの社会を導いてきた価値観を理解し、文化が国と国とを結ぶ架け橋として果たす役割を再認識していただくきっかけとなるでしょう。来場者の皆様が展示作品の美しさを味わうだけでなく、伝統を尊び、多様性を受け入れ、未来へと力強く歩むガーナの精神に触れてくださることを願っております。

駐日ガーナ共和国大使館および大使公邸が所蔵する作品を心を込めてキュレーションしてくださいました東京富士美術館に心より感謝申し上げます。また、本展の実現にあたり、献身的に尽力してくれた駐日ガーナ共和国大使館の職員の皆様に改めて御礼申し上げます。東京富士美術館による文化交流への尽力は、ガーナの文化遺産を日本の皆様、ひいては国際社会へと広く発信する貴重な機会となりました。

結びに、本展を好奇心と思索の心をもってご鑑賞いただければ幸いです。本展に展示された作品が皆様の心に深く刻まれ、ガーナと日本の友好、相互理解、そして文化交流のさらなる発展につながることを心より願っております。

ご来場とご関心に、深く御礼申し上げます。

ジェネヴィーヴ・エドゥナ・アパルウ
駐日ガーナ共和国特命全権大使

ガーナ共和国とは

ガーナ共和国は、古い歴史を有するギニア湾に面した西アフリカの国で、美しい自然環境と多様な野生生物、そして活気ある文化が魅力の国です。長い歴史と多様な民族文化を背景に形成され、アカン族をはじめとする多様な民族が暮らすこの国では、それぞれの地域や共同体の中で、独自の美意識と表現文化が育まれてきました。アシャンティ王国に代表される王権国家の伝統は、政治・社会制度のみならず、織物、金工、彫刻などの工芸文化や、音楽・舞踊・儀礼といった精神文化にも深く根付き、現在に至るまで人々の暮らしと文化意識を支えています。





東京富士美術館について

当館は 1983 年 11 月、東京・八王子市に設立された総合的な美術館です。

コレクションは日本・東洋西洋の各国、各時代の絵画・版画・写真・彫刻・陶磁・漆工・武具・刀剣・メダルなど様々なジャンルの作品約 30,000 点で形成されています。

「世界を語る美術館」を“永遠の指針”としてこれまで各国地域の優れた文化を新しい視点から紹介する海外文化交流特別展を国内外で活発に開催し、1990 年には日本の外務省より「外務大臣表彰」を受彰。2008 年には新館がオープンし、常設展示室ではルネサンスからバロック・ロココ・新古典主義・ロマン主義を経て、印象派・現代にまで至る西洋絵画 500 年の油彩画コレクションが一望できるようになりました。



問い合わせ先：TEL 042-691-4511 FAX 042-691-4623

E-mail: toiawase@fujibi.or.jp